

利根川水系砂防事務所では防災意識向上と洪水・土砂災害に関する知識の習熟を目的とした勉強会を開催しました。

■ 開催日時・開催場所

【開催日時】 令和8年6月24日(水)15:30~17:15

【開催場所】 国土交通省利根川水系砂防事務所 2階会議室

利根川水系砂防事務所の開催場所には事務所職員を中心に**31名**が現地参加。併せて、ウェブ配信では、関東地方整備局ほか管内の各事務所、連絡協議会メンバーや近隣市町の防災担当者など、**約70名**にご参加いただいた。

■ 講演内容

【講演者】 静岡大学防災総合センター 教授 牛山 素行 氏

【講演タイトル】 洪水・土砂災害は起こりうることを、起こりうる場所で



静岡大学：牛山素行 教授

【ご講演のポイント】

- 洪水・土砂災害は「想定外」ではなく、**地形的に起こりうる場所で発生する現象**である
- 災害は自然現象だけでなく人間社会との関係で成立し、**事前の備えや行動で被害規模は変わる**
- 大雨時には**洪水と土砂災害が同時に発生することが一般的**であり、個別に捉えるのは危険
- ハザードマップは有効だが、境界を厳密に解釈せず、**面的に広く理解することが重要**
- 洪水時の人的被害は屋外で多く発生しており、**避難行動(移動)がリスクとなる場合がある**
- 流水は水深だけでなく流速の影響が大きく、**流れる水には近づかないことが基本**
- 災害リスクは地形等の「素因」と降雨等の「誘因」により決まり、**地域特性の理解が重要**

■ 参加者からのコメント

会場参加の事務所職員のほか、ウェブ参加いただいた群馬県下仁田町の岩崎町長から下記のコメントをいただき、牛山先生より研究成果に基づく回答がなされました。



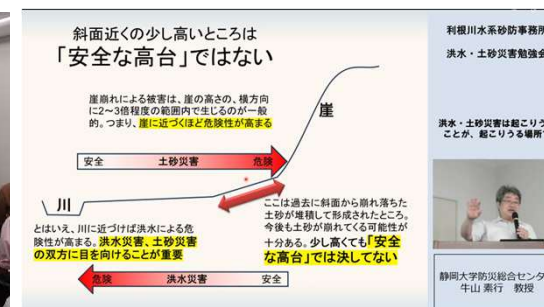
下仁田町：岩崎正春 町長

【コメント・質問】

- 下仁田町では2007年の台風9号と2019年の台風19号で**大変な大雨を経験**している。それを踏まえ災害マップを作成しているが、牛山先生の講演にもあったように、**災害が起きる場所というのはある程度予想できる**としても、**災害の規模の大きさがわからないところに不安がある**。
- 首長は**避難情報を発表する権限があると同時に責任がある**わけだが、**外部に助けを求めるタイミングをどの辺りで判断したらいいか**ということは、なかなか難しい。
- 災害対応に当たってもらう職員と消防団員の出動を求めるわけですが、**何処で、その職員や消防団員を配置、撤退するかという判断のタイミングも悩ましいが、何か参考になる研究成果があれば教示願いたい**。



事務所長開会挨拶



配信映像のイメージ

ウェブ配信では、Microsoft Teamsを用いて、右図(配信映像のイメージ)のようにスライドと映像・音声をリアルタイム配信。